

― 村川 毅 議員 ―

町立病院新改革プランについて

(町長) 経営形態は現状を基本に

村川 町立病院では、

医療法の改正で、道が作成する地域医療構想との整合性を取った新改革プランの本年度中の策定が義務付けられた。これは増え続ける医療費抑制に向けて病床数を減らし、在宅医療などに転換を促す政府の方針を受けた措置で、道が積極的に関与する点は前回の改革プランとは大きく違う。町も病院の生き残りをかけたプラン作りが必要だ。構想では八雲、長万部、今金、せたなの4町の病院で444床も削減すると発表されたが、目指す病院はどのような病院で何床となるのか。

町長 具体的な病床数は、医療圏域内で協議をしなければ決定できない。

病院の目指す姿は、地域医療構想と地域包括ケアシステム構築のための中心的役割を果たす病院、特に在宅医療と回復期機能の充実を考えている。

村川 平成32年までの5年間で取り組むプランだが、経営形態や改築などについても含まれるのか。

町長 経営形態はあくまで現状の病院を基本に考えている。町内唯一の医療機関として、また、救急指定病院として、病院という形態が必要と考えている。

病院は建設より34年が

過ぎ、耐用年数が近づき老朽化が進んでいる。改修改築等近い時期ではあると考えている。

村川 その件は改革プランに盛り込むと理解してよいか。

町長 プランに載せて考えるのではなく、別立てで考えていきたい。様々な防災の観点も含め、事業の財源の確保の仕方もあるので、新しい年度にかかる段階で検討していきたいと思っている。

村川 検討するということではプランに入れてはどうか。

町長 策定の進捗を見て欲しい。
村川 当初予定していたコンサルへの委託はや

めたようだが、有識者や地域住民など外部からの意見は改革プランに反映されるのか。

町長 渡島檜山の各病院での策定方法を聞き検討した結果、委託した場合と同程度の内容で策定できると判断したので委託はしなかった。ガイドラインでは、策定にあたり病院単独ではなく、事業管理者と意志の疎通を図ることが重要であると記載されているので、病院と町で共通の認識を持つよう協議する。

プランの中に町民の意見を取り込むことはしないが、点検評価の際に広く意見を求めプランの修正等に活かしたいと考えている。

病院経営について外部の意見を聞く場は持ちたいと考えている。

村川 住民の理解のために、取り組みはどのように行うのか。

町長 大きく医療機能や経営形態を見直す際には、町民が理解納得できるように説明が必要だ。

プランの点検評価の際には、庁内関係各課とも連携し、点検評価のための委員会等を設置することを検討し、積極的な情報開示に努めていく。

